

学会ニュース

目次

| | |
|--------------------------------|---|
| ・ 学会費納入のお願い（飯田 賢穂） | 1 |
| ・ SMOOSYのご案内 | 1 |
| ・ 『年報』オンライン化その他のお知らせ（武田 将明） | 3 |
| ・ 会員の区分について（川村 文重） | 4 |
| ・ 日本18世紀学会役員選挙について（川村 文重） | 4 |
| ・ 第46回大会について（大石 和欣） | 4 |
| ・ 第47回大会について（大石 和欣） | 5 |
| ・ 第46回大会をふりかえって（吉田 耕太郎） | 5 |
| ・ 「水田洋先生追悼シンポジウム」をめぐる回想（大塚 雄太） | 6 |
| ・ 事務局より | 7 |

学会費納入のお願い

飯田 賢穂

日本18世紀学会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日です。SMOOSY導入以降、マイページを通じて多くの会員の皆様に年会費をお支払いいただいておりますが、まだSMOOSYにアクセスしておられない会員も多数おられます。学会の活動は皆様の年会費によって支えられています。過年度分の年会費の支払いがお済みでない会員には、SMOOSY上でマイページにアクセスの上、お支払いいただけますようお願いいたします。未払いの過年度分年会費がある会員には、追って学会から請求を差し上げます。また、2024年度分の会費納入につきましても、12月中にあらためてご案内申し上げますが、お早めのご対応をお願いいたします。SMOOSYと年会費納入方法について、以下あらためてご案内します。

SMOOSY導入のご案内

当学会では、学会運営を簡素化・効率化し、学会を長期的に維持するため、2023年度から、株式会社アトラスが提供する会員管理システムSMOOSYを導入しました。それにともない、日本18世紀学会の公式サイトも <https://jsecs.smoosy.atlas.jp/ja> に移転しました。

SMOOSY導入にともない、会員の皆様には各自「会員マイページ」が割り当てられ、各自の操作によって、以下の一連の操作が可能になりました。

- ・ 会員登録情報の閲覧、変更
- ・ 会費納付状況の照会
- ・ 会費のオンライン決済手続き（銀行バンクチェック決済）
- ・ 会費の請求書、領収書PDFのダウンロード

・学会からのお知らせ閲覧

また、学会からの連絡や会費納入の督促もSMOOSYを通じて一括して行うこととなります。以下では、①会員マイページにログインし、登録情報を更新する方法、および②オンライン上で年会費の支払いを行う方法をご説明します。

①【会員マイページ ログイン方法】

(1) 会員マイページの【初めてログインする方はこちら】をクリックし、会員情報として登録しているメールアドレス（※）を入力して【送信】ボタンをクリックします。

(2) 「パスワード設定URLのお知らせ」メールが届くので、メール文内のパスワード設定URLをクリックします。

(3) パスワードを入力し【登録】ボタンをクリックします。

(4) 【会員マイページ】ボタンをクリックして会員マイページを表示します。

(5) 画面一番下の【会員情報を変更する】ボタンをクリックし、ご自身の情報を確認・更新してください。

※登録されているメールアドレスは、当学会から会員の皆様にお送りしているメールの受信アドレスとなります。メールが届いていない方は事務局（jsecs18@gmail.com）までご連絡ください。

また、操作方法が不明な場合は会員マイページ画面右上の【ヘルプ】をご参照ください。さらに、一部の項目については、会員による変更ができません。会員種別、氏名、生年月日、入会日（不明者は1800年に設定）等です。これらについて変更を希望される方は、事務局までお知らせください。なお、賛助会員の方はマイページがご使用になれません。内容のご照会は引き続き事務局までお願いいたします。

②【年会費の支払い方法】

(1) まず会員マイページにログインしてください（①参照）。

(2) 画面上で「請求名称・入金状況」を確認してください。「未入金」と表示される年度の会費の納入をお願いします。

(3) SMOOSYでの決済は、SMOOSYを運営する株式会社アトラスを通じて、株式会社ROBOT PAYMENT（ロボットペイメント）の決済代行サービス（バンクチェック）を利用しています（※）。

(4) 【請求/入金情報】欄の画面右側【操作】枠の【支払う】をクリックし、

(5) 明細を確認の上、【お支払いに進む】をクリックしてください。

(6) 受付画面（ROBOT PAYMENTシステム）で電話番号と振込人名義を入力します（SMOOSY上で電話番号が登録されている場合は、あらかじめ表示された電話番号のままです）。振込人名義欄にはSMOOSYに登録されている氏名のカナ表記が表示されていますが、お持ちの口座の名義と異なる場合は口座の名義と一致するよう変更してください。一致しないとROBOT PAYMENTシステム上で入金を確認できません。

(7) 「入力確認」画面で入力事項を確認の上、【次に進む】をクリックし、「決済申し込み完了」画面で【決済申し込み】をクリックします。

(8) ここで、いったん会員マイページに戻ります。【請求/入金情報】欄の右側に、あらたに【振込先口座情報】のボタンが現れるので、クリックしてください。

(9) 振込先口座番号の情報が現れます。以下はその一例です。各会員の振込毎に、「りそな銀行アース支店」の「ロボットペイメントシュウノウダイコウ」名義の個別の振込先口座番号が指定される設定となっています。この口座番号は一請求につき一つずつ割り当てられるもので、同一会員であっても年度ごとに異なります。複数年度の会費が未納の方は、お手数ですがそれぞれの請求に対応した口座に入金してください。

例)

| | | |
|------------|-----------|------------------------------|
| 0010.りそな銀行 | 936.アース支店 | 普通.76****3.カ)ホツペイメント シュウナグイヨ |
|------------|-----------|------------------------------|

(10) 受付メールが届きます。振込先口座番号はメールにも記載されています。

(11) 指定された振込先口座番号への入金、従来のゆうちょ銀行口座への入金方法とまったく同じです。会員各自がオンライン決済なり、銀行での振込なりによって実行してください。

(12) ROBOT PAYMENTで入金を確認され次第、SMOOSYからメールで銀行振込の確認のメールが届きます（数時間、ないし土日を含む場合は数日かかる場合があります）。なお、学会事務局にはROBOT PAYMENTから入金確認後、その都度通知が入ります。

(13) 同時に、SMOOSYの会員マイページ上で「請求/入金情報」欄の該当年度の右端に「領収書を発行する」のボタンが現れます。

(14) 請求書を発行する場合は、「請求/入金情報」欄の画面右側「操作」枠の「請求書を発行する」からダウンロードしてください。

(15) 領収書を発行する場合は、お支払い後、「請求/入金情報」欄の「入金済を含む全ての請求を表示する」をクリックし、「請求一覧」画面右側「操作」枠の「領収書を発行する」からダウンロードしてください。

※年会費の支払いは、事務局の負担の軽減のため、できるだけROBOT PAYMENTを介した入金をお願いします（一請求一口座の効果で、誰がどの年度の会費を払ったかが自動的に記録されます）。従来通り、学会のゆうちょ銀行口座への直接振込を希望される方は、学会事務局まで申し出てください。

学会運営の効率化と維持のため、以上、①登録情報の確認と②年会費の納入につき、会員各位のお力添えをお願いいたします。

以上、ご不明な点があれば、日本18世紀学会事務局までお問い合わせください。

『年報』オンライン化その他のお知らせ

日本18世紀学会年報編集委員長 武田 将明

当学会の『年報』は、1986年の創刊以来、2024年6月に刊行された第39号まで38年にわたり紙の冊子として刊行を続けてまいりました。この間、日本と世界の学術をめぐる環境には多くの変化が生じ、学術雑誌の刊行形態についても紙の冊子からオンラインでの出版に切り替える事例が多く見られるようになりました。日本18世紀学会でも、2024年6月に大阪大学で開催された第46回大会における総会での決議を受け、2025年6月刊行予定の『年報』第40号からオンライン形式で刊行することとなりました。一部の図書館に寄贈するものを除き、基本的に紙の冊子の刊行は中止いたします。その代わりに、J-STAGE（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>）という学術論文をオンライン上で公開するためのウェブサイトにおいて『年報』を全文公開いたします。なお、過去の『年報』につきましても、著作権などに配慮しつつ、随時J-STAGE上で公開することを予定しております。

J-STAGE上で『年報』を公開することにより、これまで以上に多くの研究者・一般読者に向けて日本18世紀学会の研究活動が公開されることとなり、より多くのフィードバックを受けられるかと存じます。これは会員のみなさまの研究活動にとっても有益であり、『年報』にご投稿いただくためのインセンティブにもなるのではないかと期待しております。

また、『年報』のオンライン化その他の状況を踏まえ、上記の第46回大会総会において、『年報』投稿規程の改訂が承認されました。新規程の内容については、下記のリンクをご覧ください。

https://jsecs.smoosy.atlas.jp/ja/submission_instructions

以下、大きな変更点の概要をお示しいたします。

まず、投稿に関するご連絡先を、以下の編集委員会のメールアドレスに一本化しました。

jsecseditors@gmail.com

次に、投稿論文と書評・展覧会評の字数など書式を全面的に見直しました。なので、今後投稿・寄稿をされる会員は必ず新規程に従ってご執筆ください。

また、『日本18世紀学会年報』に掲載された論文（欧文要約を含む）や書評・展覧会評、発表要旨を電子媒体に複製する権利、およびインターネットその他を介して公衆送信する権利は、学会に属することを明記しました。この点、会員のみなさまにおかれましてはご留意ください。

現幹事会では、年次大会と『年報』の充実の二つを主眼として、学会の運営に携わっています。当学会を18世紀研究のための活発な学術的交流の場とすべく、一人でも多くの会員からの投稿希望をお待ちしています。

今後も『日本18世紀学会年報』をよろしくごお願い申し上げます。

会員の区分について

川村 文重

事務局（名簿・選挙管理担当）では、今年度、会員区分の確認作業を進めてきました。会則には「本会は通常のA会員の他に、次世代支援のため、学生または常勤職を持たない者等を対象とするB会員を設ける」（第5条2項）とありますが、これまでAとBの選択は自己申告に基づいていました。しかし、BからAに変わるべきところBのままであったり、常勤職を退職したのを機にAからBに変更したりなど、実態が会則規定に即していないと思われるケースが見受けられました。そこでまずは、該当会員から変更をお申し出いただくようお願いし、その後、該当すると思われる会員にメールや手紙で問い合わせ、変更の承認を依頼しました。

日本18世紀学会役員選挙について

川村 文重

当学会では、2年ごとに役員選挙が行われており、2025年はその年に当たります。今回の選挙は、前回と同様に、2022年6月25日の総会で改正された「日本18世紀学会の役員選出に関する細則」第3条2項および第7条2項の規定に基づき、電子投票で実施します。2025年3月中に投票を開始し、締め切りは2025年4月1日（火）を予定しています。投票期間が近づきましたら、被選挙者名簿とともに要領をお届けします。

第46回大会について

大石 和欣

日本18世紀学会第46回大会は、2024年6月22日（土）・23日（日）に大阪大学豊中キャンパスにて、対面にて開催されました。開催校責任者は吉田耕太郎会員が務めました。自由論題は12本でした。共通論題は、永見瑞木会員をコーディネーターとして「フランス革命から問い直す18世紀」を開催しました。また、学会企画として水田洋先生追悼シンポジウム「甦る『ある精神の軌跡』—水田洋と社会思想の道」を、大塚雄太会員をコーディネーターとして開催しました。レクチャーコンサートについて

ては、鈴木聖子氏を講師に迎えて、「近世箏曲における東西接触のミッシングリンクー近現代日本の音楽研究者たちの夢」を開催しました。関係者の方々に篤く御礼申し上げます。

第47回大会について

大石 和欣

次回、日本18世紀学会第47回大会は、2025年6月28日（土）・29日（日）に慶應義塾大学（三田キャンパス）で開催します。開催校責任者は慶應義塾大学文学部の原田範之会員です。自由論題の発表希望者は、2025年2月末日までに、以下の公募要領にしたがってご応募ください。

自由論題公募要領

第47回大会で研究報告を希望される会員は、1000字以内の発表要旨をワードファイルかテキストファイルの形式で添付して、**2025年2月末日までに、学会幹事会（大会担当幹事）までメールでお申し込みください。**宛先のメールアドレスは以下の通りです。

jsecs.congress@gmail.com

採用の可否は幹事会で審査し、大会担当幹事から追ってお知らせいたします。

報告は一件につき50分、うち研究発表に40分、質疑応答に10分の予定ですが、申込者多数の場合は、個々の発表時間を短縮するなど、調整させていただくことがあります。あらかじめ御了承下さい。

研究発表の機会を求めている若手研究者の方も歓迎します。非会員も当学会に入会した時点から、自由論題発表への応募の権利が生じます（入会申請は随時受付と承認を行なっています）。ぜひこの機会に当学会にご入会ください。入会申請はホームページの入会案内から行うことができます。博士論文準備中の学生など周囲におられる方は積極的に声がけいただけると幸いです。多くの会員の参加をお待ちしています。

第46回大会をふりかえって

吉田 耕太郎

2024年6月22日と23日、日本18世紀学会第46回大会が大阪大学で開催された。新型コロナ関係の規制を撤廃しての本格的な対面開催の会場として、大阪大学に声をかけていただいたことにまず感謝したい。学会の準備では、一般参加者の受付け、懇親会費の事前支払いなど、学会がすすめてきた事務の電子化の恩恵に与ることになったことも記しておく。

個人発表の申し込みが（うれしいことに）予想を上回り、担当校としても、発表会用の会場を増やして準備万端の状態だったのだが、トイレの改修工事と重なり、別の校舎に会場を移すことになってしまった。結果、1階の小会場と4階の大会場を行き来するというなんとも不便なものとなってしまった。阪大まで足を運んでいただいた会員のみなさんには、この場をかりてあらためてお詫びしたい。そのほか、あげれば切りがないのだが、エアコンの効きが悪い、プロジェクターがうまく動作しない、ワイヤレスマイクの充電機がつかいものにならなくなってしまった等々、準備の不手際が一気に吹き出た二日間だったことも、反省を込めて書き記しておく。たくさんのトラブルに、相互に連絡をとりあい臨機応変に対応してくれた阪大の学生アルバイトのみなさんにも、本当に助けてもらった。

会場準備に手間取り、開催校企画については幹事会にお返しすることになってしまったが、レクチャーコンサートでも、たくさんの人たちが協力してくれることになり、なんとか企画をまとめることができた。レクチャーを快く引き受けてくれた鈴木聖子先生とは、お互い箏曲をやっていたことで盛

り上がり、毎回の打ち合わせの時間はとても楽しかった。ホールでの音だしチェック、練習、リハーサルと、出演者のみなさんには、幾度となく阪大まで足を運んでもらうことになってしまった。しかも当日はあいにくの雨、それにもかかわらず、奏者のおふたりは予定通り和装で演奏していただいた。雨のなかでの楽器の運搬、感謝してもしきれない。また会場が変更になった都合で、奈良のフレンチレストランにケータリングをお願いし、ホール入り口前のスペースで懇親会を無理やり開催することになった。スペースの狭さを最後の最後まで心配していたのだが、狭い分、参加したみなさんは密に会話を楽しめたようで、安堵したことを思い出す。

会場校の担当者として、私はゆっくり発表を聞くことはできなかったのだが、活気のある二日間だったと感じた。二日目の最後に王寺代表幹事が、この学会はまだ大丈夫という趣旨の発言をされたが、私も同感だ。本会のさらなる発展を祈念している。

「水田洋先生追悼シンポジウム」をめぐる回想

大塚 雄太

外は雨が降り始めていた。少し前まで空っぽだった会場は続々と参加者を迎え、文41講義室の座席がほぼ埋め尽くされた。徐々に熱気を帯びる湿った空気。シンポジウムへの高まる期待が肌に伝わってくる。その情景を冷静に見ることができていれば、ここにもっと色々なことが書けるのだが、そうはいかなかった。どうにも落ち着かない気持ちが私の手を汗で濡らし、ペットボトルの水はシンポジウムが始まる頃にはすでに尽きていた。時計の針が定刻を指し、私はスライドに映し出されたにこやかな水田先生に厚かましくも訳の分からない救いを求めながら、シンポジウムの開会を告げたのだった。安藤隆穂先生、梅田百合香先生、坂本達哉先生、植村邦彦先生によって再現された「ある精神の軌跡」は、それぞれに異なる輝きを示し、参加者はその軌跡を確かめながら、熱心に報告に聞き入った。2時間半が実に短く感じられる、追悼シンポジウムと呼ぶにふさわしい充実した内容であった。ぜひ次年度の年報で各報告の記憶を補っていただきたい。

登壇者の先生方の入念な準備に比べれば、私の役割など限定的なものにすぎなかった。けれども振り返ってみれば、このシンポジウムのことが私の念頭から離れたことはなかった。成否が気になりだったこともあるのだが、根本的には、水田先生が亡くなられたことがまったく受け止められないままであったことによるのだと思う。名大社会思想史に育てられた私は、その大きな学恩に報いる纏まった成果をついに水田先生に届けられなかった。もはや回収できない過去を、シンポジウムによって清算しようと思っていたわけではない。ただ、このシンポジウムは受け入れがたい事実を受け止める、私のなかの大切な契機としなくてはならない。そんな思いが胸にあっただけである。

『ある精神の軌跡』を再び手に取ったのは、暮れが迫った頃だった。かつて引いた赤色の傍線は、社会思想史研究の方法と水田先生のお人柄がにじむ部分に集中していた。『ある精神の軌跡』の再読は驚くほどスムーズに、水田先生の声と感触のある心象風景とつながった。水田先生はずっと変わることなく、水田先生であった。「いかにすぐれた解説書や研究書であっても、原典を読むことにはおよばない」（文庫版 p. 241）。私を励まし続けてくれた一節には、もう一度線を引き直した。今にして思えば、私は、シンポジウムタイトル「甦るある精神の軌跡」に、再会の希望を重ねていたのだと思う。

院生となって間もない頃であった。「『社会科学の考え方』を書き直そうと思っているんだ。君が読んで引かかるところを教えてくれよ」。「そうですね、今時キャデラックで乗りつけても銀行は融資をしてくれないのではないですか」。先生は「なるほどね」と声をあげて笑っておられた。最後にお目にかかった、まだ暑さ残る秋の日のことだった。パソコンの「大先生」であった私が作業していると、「おーい、これがいまうちにある唯一の炭酸飲料」といって差し出してくださったそれは、

一缶のメロンソーダだった。曖昧な論理と無駄な言葉に厳しい先生であったが、こういう場面での先生の優しさの表現はいつも少し控えめだった。「また何か起こったら、いつでも連絡ください」。そう言ってご自宅の扉を閉めることはもうないが、水田先生の声と姿を思い出し、研究者としての誠実さと、人間と自然への温かいまなざしを、いつまでも忘れないでいたい。

いささか感傷的に過ぎる文章かもしれない。それでも、『みずうみ』のセンチメンタリズムを捨てがたく思われた先生に許しを請い、このまま届けようと思う。



事務局より

幹事会・総会について

『学会ニュース』第102号の刊行以降、幹事会および総会が以下の日程で開催されました。

2024年6月22日（土） 2024年度第1回・第2回幹事会

2024年6月23日（日） 2024年度総会

『学会ニュース』のオンライン化について

『学会ニュース』は、今回の103号からオンライン形式での発行に完全移行しました。会員の皆様へのお届け方法は、メールを通じて事務局のGoogle Driveのリンクから各自でダウンロードしていただく形となります。なお、学会ウェブサイト上にはこれまでと同様、個人情報削除した抜粋版を掲載いたします。今後はメールを介した送付となりますので、メールアドレスの登録がお済みでない方がいらっしゃいましたら、事務局までご一報ください。

『年報』への論文投稿について

大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できます。詳しくは年報または学会ウェブサイト記載の投稿規定をご覧ください。

投書欄について

この『学会ニュース』に投書をしていただくこともできます。事務局までお申込み下さい。

共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員の皆様からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事までご一報ください。（ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。）

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。（特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。）

『学会ニュース』のエッセー

今号より、会員によるエッセーの掲載を増やし、『年報』と並行して『学会ニュース』を会員同士の研究交流の場として活用していく方針となりました。初回となる103号は、2024年に開催された第46回大会を振り返って、大会関係者の会員の皆様に寄稿いただきました。今後は、研究紹介、海外滞在

記等、テーマは自由で、1200字程度のエッセーを随時受け付けていきます。会員の皆様からの積極的なご寄稿をお待ちしております。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。

寄付のお願い

寄付を希望される方は事務局までご一報ください。こちらから振込方法についてお知らせいたしません。

献本

学会宛に以下の図書をいただきました。お礼申し上げます。

- ・ 金沢友緒 『ロシア啓蒙主義の迷景——エカチェリーナ二世時代の官僚作家が目指した「近代」』 (群像社、2024年2月)
- ・ 森本頼子『シェレメーチェフ家の農奴劇場——一八世紀ロシアのオペラ文化史』(道和書院、2024年5月)
- ・ ジェームズ・A・ハリス『ヒューム入門』矢嶋直規訳 (丸善出版、2024年6月)
- ・ エルヴェシウス『精神論』森岡邦泰・菅原多喜夫訳 (京都大学学術出版会、2024年7月)
- ・ 富田晃『ルソーと人食い——近代の「虚構」を考える』 (共和国、2024年10月)
- ・ 貝原伴寛『猫を愛でる近代——啓蒙時代のペットとメディア』 (名古屋大学出版会、2024年11月)

新入会員募集

日本18世紀学会では、新規会員を募集しています。入会希望者は学会ウェブサイトの [入会案内] からいつでも入会申請が可能であり、幹事会では随時入会承認を行っています。非会員も入会した時点から大会の自由論題発表への応募の権利が生じます。会員の皆様も、ぜひ18世紀研究に関心のある方を当学会にご勧誘ください。

幹事会メンバー (50音順) : 飯田賢穂 (事務局)、出羽尚 (年報編集)、岩佐愛 (年報編集)、王寺賢太 (代表幹事)、大石和欣 (大会)、大塚雄太 (大会/年報編集)、隠岐さや香 (大会/国際学会副事務局長)、金沢文緒 (事務局)、川村文重 (事務局)、小関武史 (事務局)、後藤正英 (年報編集副委員長)、斉藤渉 (事務局長)、菅原百合絵 (広報)、武田将明 (年報編集委員長)、玉田敦子 (国際学会派遣委員)、永見瑞木 (年報編集)

会計監査 : 井関麻帆、奥香織

日本18世紀学会ニュース 第103号 2024年11月発行

発行者 日本18世紀学会 代表者 王寺賢太

事務局 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科 斉藤渉研究室 日本18世紀学会事務局

e-mail: jsecs18@gmail.com

<https://jsecs.smoosy.atlas.jp/ja>